

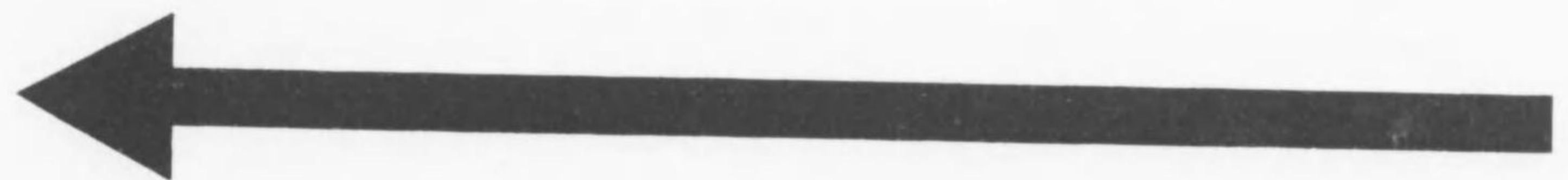
特259

527

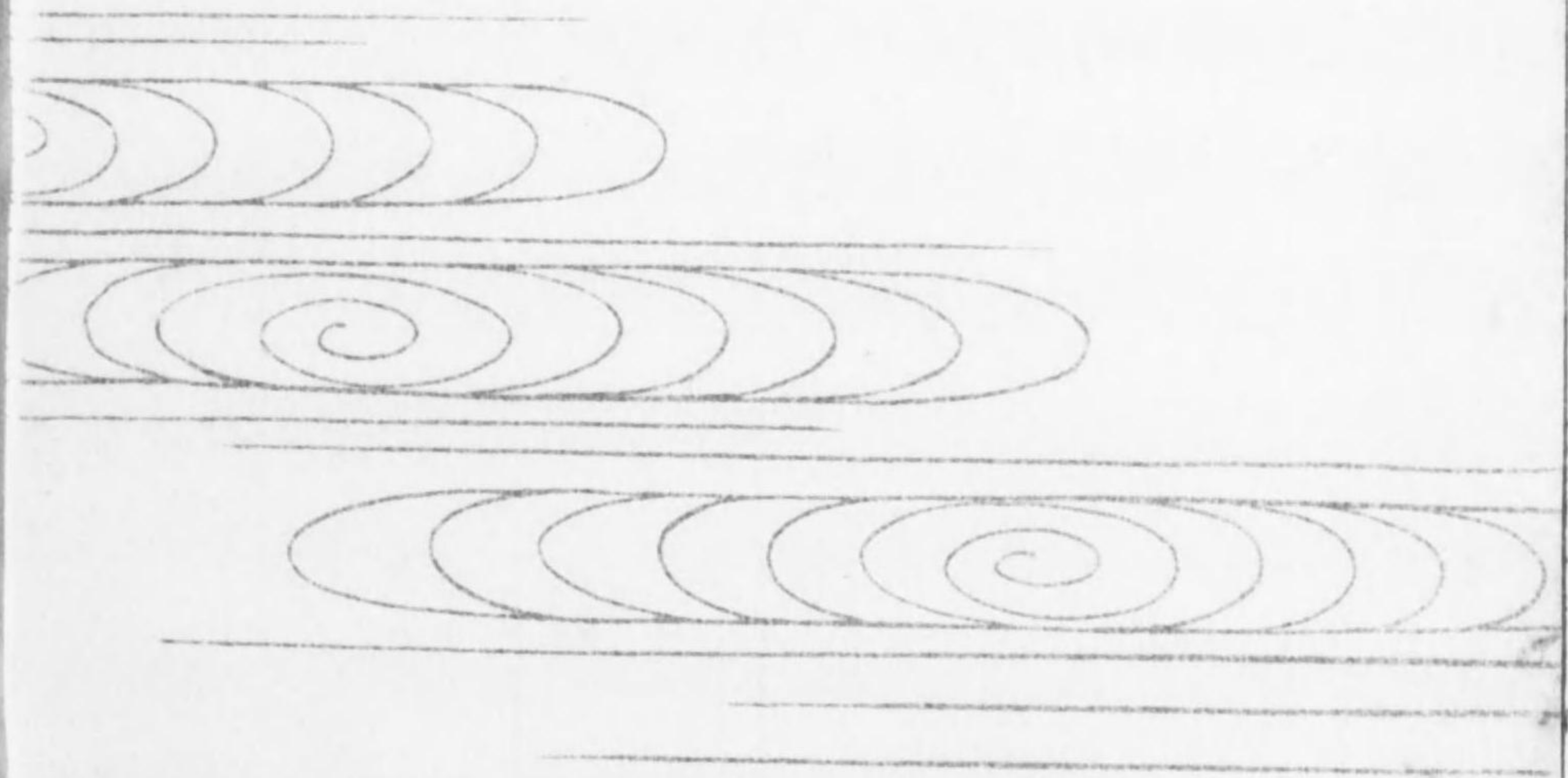
三讀物
三曲
番外三



始



持259
527





三曲

初瀨六代

東國下

西國下

三曲

目



初瀬六代

^{サシ上}それ世間の無常は旅泊の夕べ
^{ヨソ}にあらはれ。有為の轉變は草露
^詞の風に滅するが如し。われ一所不住
 の沙門として。縁に任せて。諸國
^{カル上未}をめぐる。名所舊跡おのづから捨
 て。交はる塵の世の夢も現も

隔てなく。好去脚來の境界に至
 る。詞。くに大和の國初瀬の觀世音は。
 靈驗殊勝の御事なれば。暫く
 空を籠し。山寺の致景を見るに
 山聳え谷廻りて人家雲に連な
 り。晚鐘雨に郷音きぬ。川隈も。
 なほ暮れかゝる雲の波。なほ暮れ

かる雲の波。さながら海の如くにて。
 補陀落もかくらくの初瀬の寺は
 ありがたや。げにや海士小舟。初瀬の
 山に降る雪と。詠みしもさぞなか
 く川の浦の名もある。景色かな
 浦の名もある景色かな。詞。に
 はれなる事。のゆ。寺堂の西のつまに。

局ツボネつらひて女性ニヨキヤの籠コヨミりけるが。
 身ミに思オモひありしと見えカハル上末て忍ニギび
 かねたる言コトの葉ハの色イロに出イで音ネに
 立てタてもたゞ後ノチくのみなる有ア様な
 詞コト或ナ時トキ女房ニヨウ達タチと思オモへカハル上末き人ヒト御堂ミドウの
 四面シメンをまはり。千チ度の歩フミみを運ハぶ
 と見えカハル上末が。未マだ數カズも終ハらざるに。

あわたアたタくク局ツボネに走ハり入イり。唯タ今イマ
 浅アサましき事コトをこそ聞キいてゆへ
 駿河スナガハの國クニ千本チホノの松原マツハラにて。平家
 の棟梁トウリヤウ六代ロクダイ赤前アカノサキの斬キられさせ
 給タマへカハル上末。見ミてゆと申マウす者モノのゆと申マウ
 しもあへす臥フシしまろびたり。そ
 の時トキ主ヌシの女房ニヨウさうりとももところ

思ひにござては早斬られけるかど
聲も惜しまず臥し沈み給ふさて
は六代の母にてましましけるよと
その時こそ人も思ひけれ傳へ
聞く孔子は鯉魚に別れて思ひの
火を胸に焚き。白居易は子を先
立て。枕に残る薬を恨む

これ皆仁義禮智信の祖師文道
の大祖たり。況んや末世の衆生と
いひ。かも女人の身とて。恩愛
の別れを悲しむ事。げにも誠に理
なれども。その理も過ぐるばかり。
餘所の袂もうるほつり。やあつて
母御前。涙をおさへて宣ふやうさる

にてもわが子をば上人の御助
 けをこそ頼みつるにその御かひ
 もなまきやらんもくは眞に斬ら
 れなば齋藤五齋藤六走りも
 来りて申すへきにた餘所人のつて
 にだに早くも聞ゆる程なるに何
 とてかれらは遅きやらんと聲も

惜しまぬ言の葉の色も心もま
 さり草何をか種と思ひ子の浮
 世に残る身ぞつらき初瀬の鐘
 の聲つづく思へ世の中は諸行
 無常の理假に見ゆる親子の夢
 幻の時の間とかねてはかくと思へ
 どもまこと別れになる時は思ひし

心もうら失せてたぐれくれと
 堪へかぬる胸の火は焦がれて身
 は消ゆる心のみなりさるにても
 わが子の失はれんさけるとは
 知れどもなほやさりとももの頼
 みをかけまくも忝くもたぐれ頼め
 南無や大悲の観世音願はくは

もとよりの海誓願に任せつ念
 彼観音力刀尋段々の功かけに
 偽らせ給はずは剣をも折らせ
 てわが子を助け給へやかりける
 處に男一人來りつ齋藤五冬
 りたりと申せば御母も如何に
 如何にと宣へば御喜びになりたり

駿河の千本にて既に斬られさせ
 給ひしをよ上人その時に駒を早
 めて走りおり喜びの御教書に
 て助からせ給ふ由申せば御母
 も餘りの事の心にや嬉しきとた
 にもわきまへずたは茫然とあき
 れつ。ありがたの事やと手を合は

せ給ふ袂にも覺えず落つる涙
 の嬉しき袖をだに乾さぬや涙
 なるらん

東國下

そのもその盛久と申すは平家
 譜代の侍武畧の達者たりしかば
 鎌倉殿まで知らし召したる兵なり

花の都を出てしより音に後きを
 めし賀茂川や末白川をうら渡
 り栗田口にも着きしかば今は誰
 をか松坂や四の宮河原四の辻
 関の山路の村時雨いと袂や濡ら
 すらん知るも知らぬも逢坂の嵐
 の風の音寒き松本の宿にお出

の濱湖水に月の影見えて氷に波
 やたむらん越を辭せしみ記蟲が
 扁舟に棹を移すなる五湖の煙
 の波の上かくやと思ひ知られたり
 昔ながらの山里も都の名をや
 残すらん石山寺を拜めばこれ
 又救世の悲願の世に超え給ふ御

誓^{チカ}ひ^ヒ頼^{チカ}も^スく^キぞ^キや^キ思^{オモ}ゆる^ル。瀬^セ
 田^タの^ノ長^{ナガ}橋^{ハシ}か^ケ見^ミえ^テ。長^{ナガ}虹^{コウ}波^ハ
 に^ニ連^ツな^レり^{。浮}世^{ウキ}の^ノ中^{ナカ}を^{シテ}秋^{アキ}草^{クサ}の^ノ
 野^ノ路^チ條^{ジョウ}原^{ハラ}の^ノ朝^{アサ}露^{ツキ}。お^オき^キ別^ワれ^レ
 行^{ユク}旅^リの^ノ道^{ミチ}幾^イ夜^ヨな^ニ夜^ヨな^ニを^{シテ}重^{オモ}
 ぬ^ヌらん^{。露}も^モ時^{トキ}雨^{アメ}も^モ守^モ山^{ヤマ}は^ハ
 下^{シタ}葉^ハ残^{ノコ}ら^ニぬ^ルも^モみ^ミぢ^チ葉^ハの^ノ夕^{ユフ}日^ヒに^ニ

色^{イロ}や^ヤま^マさ^サる^ラん^{。い}に^ニへ^ヘ今^{イマ}を^{シテ}鏡^{カミ}
 山^{ヤマ}形^{カタ}を^{シテ}誰^{タレ}か^カ忘^ワる^ルべ^キ。勇^{ユウ}む^ム心^{ココロ}は^ハ
 な^ナけ^ケれ^レど^トも^モそ^ソの^ノ名^ナは^ハか^カり^リは^ハ武^ブ
 佐^サの^ノ宿^{ヤド}。ま^マだ^ダ通^トひ^ヒ路^チも^モ浅^{アサ}茅^チ生^ナ
 の^ノ小^コ野^ノの^ノ宿^{ヤド}よ^ヨり^リ見^ミ渡^ワせ^セは^ハ斧^ノを^{シテ}
 磨^トり^リ磨^ト針^チや^ヤ番^{バン}場^バと^ト音^ネの^ノ聞^キえ^エ
 一^{ヒト}は^ハこ^コの^ノ山^{ヤマ}松^{マツ}の^ノ夕^{ユフ}嵐^{アリ}旅^リ寝^ネの^ノ

夢も醒が井のぬづから結ぶ草
 枕誰か宿をとも柏原月も稀な
 る山中に不破の閑屋の板庇久
 しくならぬ旅にだに都の方ぞ
 恋しき垂井の宿を過ぎ行けば
 青野が原は名のぬして皆夕霜
 の白妙枯葉に漏る草もなし

かる浮世に青墓や捨てぬ心を
 抗瀬川墨俣足近の渡りして
 下津萱津うち過ぎて熱田の宮
 に参れば蓬萊宮は名のぬし
 て刑戮に近きこの身の不死の薬
 やなかるらん蘆間の風の鳴海
 瀉干汐につる捨小舟さで沖にや

虫でぬらん サシ すがにの蜘蛛手に
 かる八橋や澤邊に白く杜若在
 原の中將のはるばる來ぬと詠せ
 しも。今身の上には知られたり
 なほ行く末は白真弓矢矧の宿
 赤坂松にかれる藤が枝の梢の花
 を宮路山わたりと今橋うち渡

り。雲と煙の二村山は高師の名
 のみして野里に道やつくらん
 波の満干の潮見坂。蒼海天に連
 なりて。雲に漕ぎ入る仲つ舟吳
 楚東南にわかれて乾坤日夜浮
 かめり。帰らん事を白須賀に暫
 一ありある水鳥の下安からぬ心

かな。夕汐のぼる橋本の濱松が枝
 の年々に幾春秋を送りけん山
 は後の前澤夜は明け方の遠
 山にはや横雲の曳馬より天
 龍川も見えたり。衰へ果つる姿
 の池田の宿鷲坂。旅寝にだに
 も馴れぬれば。夢も見附の國

府とかや。岸邊に波を掛川小夜
 の中山なかなかに命のうちは
 白雲の又越ゆべしと思ひきや。
 憂き事をのみ菊川や旅の疲
 れの駒場が原。變る淵瀬の大井
 川。川邊の松に言問はん。花紫の
 藤枝の。幾春かけて自らん馴れ

に一旅の友だにも心岡部の宿
 とかや。葛の細道分け過ぎて着
 馴衣を。宇津の山現や夢にな
 りぬらん。湊に近く引く網の手
 越の川の朝夕に思ひを駿河の國
 府を過ぎ清見が閑のなかなか
 にとまらぬ旅や憂かるらん。薩埵

山より見渡せば遠く出でたる
 三保が崎。海岸そこも白波
 の。松原越に眺むれば梢に寄す
 る海士小舟。餘りに袖や濡らす
 らん。由比蒲原をとも過ぎしか
 ば。田子の浦わも近くなる。西天
 唐土扶桑國並ぶ山なき富士の

根や萬天の雲を重ぬらん浮島
 が原を過ぎかば左は湖水波
 寄せて蘆葉淺水の浮鳥の上
 毛の霜をうち拂ふ右は蒼海遙
 かにて漁村の孤帆出かなり
 傾教智解の衆生の火宅の門を
 出でかねし羊車鹿車大牛の車

返りはこれかどう上伊豆の國
 府にも着きかば南無や三島
 の明神本地大通智勝佛過去
 塵點の如くにて黄泉中有の旅
 の空長圍眞の巻までも我等を
 照らし給へと深くぞ祈誓申しけ
 る雲の古枝の枯れてだに二度花や

嘆きぬらん

西國下

^{サシ上}壽永二年の秋の頃。平家西海に
 赴き給ふ。城南の離宮に至り都
 を隔つる山崎や。開戸の院に玉
 の清輿をかき据ゑて。八幡の方を
 伏し拜ふ。南無や八幡大菩薩人皇

始まり給ひて十六代の尊またり。
 寺裳濯川の底清く。末を受け
 繼ぐ御惠み。なごか捨てさせ給ふ
 へき。他の人よりもわが人と。誓は
 せ給ふなるものを。西海の波の
 立ち帰り。一度帝都の雲を踏
 み九重の月を眺めんと。深く

祈誓申せども。惡逆無道のそ
 の積り。神明佛陀加護もなく。
 貴賤上下に捨てられ帝城の外
 に赴く。何となり行く水無瀬川。
 山本遠くめぐり来て。昔男の
 音に泣き。鬼一口の芥川弓胡
 録を携へて。駒に任せてうち渡

す。馴れ都を立ち出でて。いつく
 に猪名の小笹原。一夜假寝の宿
 はなし。蘆の葉分の月の影。隠
 れて住める昆陽の池。生田の小野
 のおのづから。この川波に浮寝せ
 し。鳥は射ねども如何なれば。身
 を限りとや嘆くらん。千山の雨に

水まさり。濁れる時は名のみして。
 晒すかひなき布引の瀧津白波
 音立てく雲のいつこに流らん。
 五千舟の名残に五百の舟を造り
 て貢を絶えず運びしも武庫
 の浦こそ泊りなれ福原の故
 郷に着きしはかば。人々の家々も。

年の三とせに荒れ果てく。梟松
 桂の枝に鳴き。狐蘭菊の叢に隠
 れ住む。削れし名残も波風の荒
 磯館住み捨てた。海士の子の
 住み所宿も定めぬ假寝かな相
 國の作り置かれし。所々も荒れ
 果てく。古宮の軒端月漏り金玉

を交へし粧ひ。花の轆を集めし
 も唯今のやうに思はれて昔ぞ
 憇かりける 釋迦一代の藏經
 五千餘巻を石に書き蒼海の
 底に沈めて。一居の島を築きし
 かば。數千艘の船を留め風波の
 難を助けしは。ありがたかりし

かたみなり世を浮波の寄るべな
 き身の行く末ぞ悲しき かくて
 主上を初め奉り。皆御船に召
 されけり。習はぬ旅の浮枕思ひ
 やること悲しけれ 南殿の池の
 龍頭鷁首の亭船ぞと。思ひなが
 らも寒江に。釣の翁の棹の歌

年を經て。回はず。語りイシヒの古イシヒを思オモ
 ひやるこそゆかしけれ。船フネより車クルマ
 に乗り移り。暫しトキとト思オモへども。
 須磨や明石の浦傳ツルギひ。源ゲン氏の
 通スひし道ミチなれば平家ヘイカの陣マには。
 いかゞとて又この浦ウラを漕カぎ出デだ
 す。汐シ瀬セは波なみも高砂タカや尾上オノの

松マツの夕ユフ嵐アザ船フネをいづくいづくに誘ユふらん。
 室ムロの泊トりの苦ク館カンがげは隙ヒもある。
 夕ユフ月ツキ夜ヨ遊ユ女メの謠ウタふ歌ウタの道ミチ浮ウ世セ
 を渡ワる一ヒト節ノも誠マコトにあはれなり。
 けり。習ナはぬ旅ツリは牛窓ウシマドの瀬戸セトの
 落オ汐シ心ココロせよげにあらけなき武ム士シ
 の梓スズナの弓ユミの鞆ツルの浦ウラ。賑ニギハ民タタのかま

どの閑夢路をさそよ波の音ヨ上上月落
 ち鳥鳴いて霜天に満ちてすさ
 ましく江村の漁火もほのかに半夜
 の鐘の響音は客の船にや通スらん
 蓬窓雨スたりて知らぬ夕路の楫
 枕片敷く袖やしをるらん荒磯波
 の夜の月沈みし影は帰らず

三續物

願書

起請文

勸進帳

願書

何々^{シテ}帰命^{キキ}頂禮^{テイレイ}八幡^{ヤチワン}犬菩薩^{イヌボサツ}は日^{ニチ}
 域^キ朝廷^{テイテイ}の本^{ホン}主^{シュ}累^{ルイ}世^セ明^{メイ}君^{クニ}の^ノ曩^{ナシ}祖^ソ
 たり。寶^{ホウ}祚^{ソク}を^ヲ守^{マモ}らんが^ガた^タめ^メ。蒼^{ソウ}生^{セイ}
 を^ヲ利^キせんが^ガた^タめ^メに。三^{サン}身^{シン}の^ノ金^{キン}容^{ヨウ}
 を^ヲ顯^{ケン}して。三^{サン}所^{ショ}の^ノ権^{ケン}扉^ヒを^ヲ押^{オシ}し開^キ
 きたま^キへり。此^{ココ}に^ニきり^リの^ノ年^{ネン}

み上げたり。義仲願書に鎬
矢を神前に捧げ申せば。御供
の兵どもも。上矢の鎬を一つづつ。
かの寶前に捧げて。南無歸命
頂禮。八幡大菩薩とて。皆禮拜
を冬らする。

起請文

敬つて白す起請文の事。上は梵天
帝釈。四大天王。閻魔法王。五道の眞
官泰山府君。下界の地には。伊勢
天照大神を始め奉り。伊豆箱根。富
士。浅間。熊野三所。金峯山。王城の
鎮守。稻荷。祇園。賀茂。貴船。八幡。三
所。松の尾。平野。總べて日本國の

犬小の神祇眞道請じ驚かす奉
 る。殊には氏の神。全く心尊討手に
 罷り上る事なす。この事偽りこれ
 あらばこの誓言の毒罅を當り。
 來世は阿鼻に墮罪せられんもの
 なり。仍つて起請文かくの如し文
 治元年九月日。心尊と讀み上げ

たるは身の毛もよだちて書いた
 りけり

勸進帳

もとより勸進帳はあらばこそ。後
 の中より往來の巻物一卷取り出
 だ。勸進帳と名づけつ。高らかに
 こそ讀み上げけれ。それつらつら。

惟^{洋同}ん見れば大恩教主の秋の月は
 涅槃の雲に隠れ生死長夜の長
 き夢驚かすべき人もなし
 中頃帝おはします御名をば
 聖武皇帝と名づけ奉り最愛
 の夫人に別れ戀慕やみがたく涙
 泣眼に荒く涙玉を貫く思ひを

善途に翻して盧遮那佛を建
 立すかほどの靈場の絶えなん
 事を悲しみて俊乘坊重源諸國
 を勧進す一紙半錢の奉賤の輩
 はこの世にては無比の樂にはこ
 り當來にては數千蓮華の上
 に坐せん歸命稽首敬つて白すと

362
+85

著 権 所 有
不 可 侵 犯



昭和九年五月廿五日 納本
昭和九年五月廿五日 發行

橋本與吉

訂正著作者 觀世左近

發行兼印刷者 檜常之助

東京市神田區錦町一丁目十番地
振替東京三五三番 電話神田二五二六番

發行所 檜書店

京都店 京都市二條通越屋町東北角
振替大阪三六一八番 電話上二九〇番

天も郷音けと續みあげたり
閑の人の肝を消し恐れをなして
通しけり恐れをなして通しけり

三書物

五

終